

4 パセリの新規薬剤導入検討試験

背景と目的

パセリは、旭川市が北海道内の主要産地となっています。今、パセリ生産者にとって最大の課題がうどんこ病対策となっており、生産者部会では防除体系に新規薬剤を導入することを検討しています。このため、これらの新規薬剤の使用に伴う薬害や防除効果について確認することを目的とした試験を行いました。

関係先 旭川青果物生産出荷協議会パセリ部会

供試薬剤

薬剤名	有効成分	期待される効果	使用方法等
ヨネポン	ノニフェノールスルホン酸銅	予防	収穫14日前まで。3回以内。
スコア顆粒水和剤 (以下、スコアと記述)	ジフェノコザール	予防 治療	収穫3日前まで。2回以内。
ストロビーフロアブル (以下、ストロビーと記述)	クシキシメチル	予防 治療	収穫14日前まで。1回以内。

耕種概要

- 供試品種：グランド（カネコ種苗）
- 播種日：2月4日 定植日：4月23日
- 栽植密度：株間25cm×条間25cm，5条千鳥植え，8,000株/10a



図 うどんこ病の発生株



図 防除の様子

試験内容

(1) 薬害の確認

6月から9月にかけて、各薬剤の散布直後から数日間、圃場内のパセリ株をよく観察し、パセリの葉に薬斑等の薬害が発生していないか確認しました。

一般的に、薬害リスクの要因である、「高温時」や「展着剤加用条件」、「殺虫剤混用条件」についても確認を行いました。

(2) 薬剤の防除効果の確認

6月から7月上旬にかけての生育期間の前半にうどんこ病の予防剤（ヨネポン）を散布し、病害が発生していないか確認しました。また、8月中旬から9月中旬の生育期間の後半に治療剤（スコア、ストロビー）を散布して、うどんこ病の発生率の比較から防除効果の確認を行いました。

試験結果

(1) 薬害の確認

項目		薬剤名	ヨネポン	スコア	ストロビー
通常防除時			薬害ナシ (6/4, 6/18, 7/2)	—	—
リスク 要因	高温時条件 * 夏期日中に散布		—	薬害ナシ (8/16)	薬害ナシ (8/16)
	展着剤加用条件 * 種類：スカッシュ		—	薬害ナシ (8/16, 9/18)	薬害ナシ (9/2)
	殺虫剤混用条件 * 種類：アフーム乳剤		—	—	薬害ナシ (9/2)

※ () 内は薬剤散布日 ※—:本試験では未確認

(2) 防除効果の確認

項目	薬剤名	ヨネポン	スコア	ストロビー
予防効果		△	○	○
治療効果		—	△ (病害蔓延時)	○

※ ○：一定の効果アリ △：本試験の条件下で効果確認できず。 —:本試験では未確認

まとめ

各薬剤の薬害及び防除効果について下表のとおり取りまとめました。

薬剤名	薬害	防除効果
ヨネポン	6月から7月初めの栽培初期においては、薬害は見られなかった。	今回の試験では、はっきりとした予防効果は確認できなかった。
スコア	薬害リスクが高まる高温時かつ機能性展着剤の加用条件においては、薬害は見られなかった。 * 展着剤：スカッシュ使用	病害の発生前や初発段階では一定の予防効果あるいは治療効果が見られた。発生が拡大した段階では卓効は見られなかった。
ストロビー	薬害リスク要因である高温時、展着剤加用条件、殺虫剤混用条件、いずれの場合も薬害は見られなかった。 * 展着剤：スカッシュ使用 殺虫剤：アフーム乳剤使用	病害の発生前や初発段階では一定の予防効果あるいは治療効果が見られた。栽培後期の病害の発生しやすい環境下でも一定の治療効果が見られた。

※上記内容については、圃場その他栽培条件の違いにより結果が異なる可能性もあることに留意する必要がある。